

問 原発への考えは

答 再稼動もやむを得ない



中山昭英

一般質問

中山

町長は、これまで原子力発電の安全性から段階的な廃止や自然エネルギーへの転換を進めるとしてきたが、今も変わらないか。

池田町長

脱原発を目指して依存度を徐々に減らしていくべきであるが、万全の安全対策を講じることを前提として、社会生活・経済活動を安定的に維持して行くうえで当面は再稼動もやむを得ないと考えている。

当然、原発に依存しない社会の実現のために、自然エネルギーの導入を推進することも国・電力会社に求めていく。



四国電力伊方原子力発電所

中山

四万十川アピールを表明し、国・電力会社が安全性への国民理解について説明責任を果たすべきと言っていたが、現状はどうか。

池田町長

原子力に関する国民の懸念は払拭されていないので、国・電力会社がしっかりと説明すべきと考えている。

県が再稼動を容認した判断を重く受け止め、尊重すべきと考えている。

問 伊方原発の再稼動は

答 注視していく

中山

新基準に合格したが、原子力規制委員会の委員長は「絶対に安全とは言わない」と危険性も認めている。日本は地震大国、伊方原発沖7kmにある活断層、処理できない高レベル放射能等の様々な危険がある。

町長は再稼動の安全性を確認しているのか。

池田町長

新基準に適合する安全対策、愛媛県・伊方町・高知県の事前協議、勉強会に基づく容認の判断から再稼動の安全性と必要性を理解している。

安全対策は終わりのないことであり、常に最新の知見を持って対策を講じていく必要から注視していくことが重要である。